

山行報告

1. 帝釈山系の沢

1985年は、帝釈山系の沢に積極的にアタックしてみた。この地域は、我々にとってはまだ足を踏み入れたことのない山域であり、活動の舞台を広げる上でも、舞土の山の資料を集めてゆくという我々の会の大目的の実現の上でも、いい経験になった一年間であった。以下、この地域の記録をまとめて紹介する。

舟岐川流域の沢(夏合宿の記録)

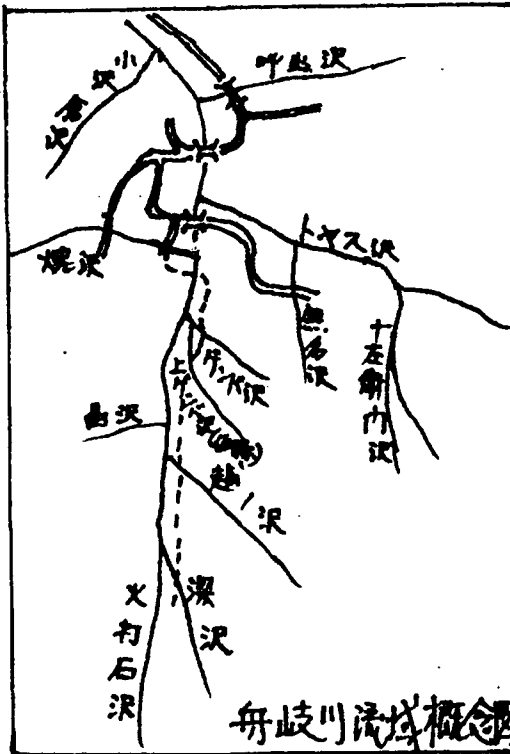
1985年の夏合宿は、舟岐川流域を中心に、一斉遡行の形で実施した。以下に紹介するのは、その時の遡行記録である。

舟岐川本流(黒沢・火打石沢)

1985年8月3日

L

トヤス沢ぞいの林道分岐から黒沢右岸の林道を深沢出合まで歩く気であったが、



50mも歩かないうちに林道は崩壊しており、やむなく沢に入る。林道の崩壊部分は、出だしの部分100m程だけであったが、やりかけたことだからと、そのまま、遡行を続ける。

焼沢出合の6mのナメ滝を過ぎると、ゴーロ状の平凡な河原歩きである。1時間程で曲沢出合に着く。

この後は、小滝がいくつか現われるが、全て難なく越える。左岸に6m2段の滝を見て先に進むと、深沢出合の手前で沢身が急に狭まり、6mの滝を有するゴルジュとなる。この滝は左岸を小さく掃く。

ゴルジュの先で沢は右に曲がる。そして深沢出合。出合からは、深沢にかかるコンクリートの橋が見えている。沢はこ

こまでが黒沢と呼ばれており、ここから上流は火打石沢と呼ばれる。

火打石沢は、沢幅が広く、全体に明るくて、快適な遊行が続く。

10:07地図上の林道終点を確認する。深沢出合の橋よりここまでは、ほとんど通行不能の廃道と化している。

この先は、ナメが3ヶ所現われるが、滝はない。

11:10水流なくなり、なだらかな瀬頭部を迎える。ヤブは浅く、20分程で引馬峠に達する。(記

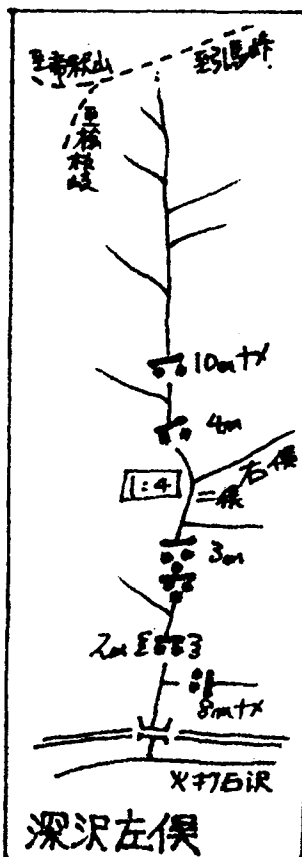
[タイム] トヤス沢出合(6:30)→深沢出合(9:20)→遊行終了(11:10)

深沢左俣(下降)

1985年8月3日

L.

11:40火打石沢の遊行を終えて、引馬峠と思われる所に出



る。しかし、尾根が広く、登山道もみつからない。地図によれば、登山道は稜線の北西にあるはずだがどうしてもみつからない。木が高く、木に登ってみても遠くは見えない。しばらくは稜線をやぶごぎしながら進む。

ひどいヤブだし、13時も過ぎたから下降しようとして下りはじめたら登山道にぶつかった。稜線よりかなり下を通っている。登山道はかなりしっかりしており、引馬峠のあたりでは倒木のせいで見逃してしまったのかもしれないと思った。

登山道を歩き、帝釈山と檜枝岐への道が分かれる所の50

